

東大阪市標準学力調査 考察資料

小学校

調査目的

- 東大阪市内の小学校児童の学習状況を調査し、学習指導要領に定められた学習内容の定着状況を把握するとともに、今後の学力向上および指導の改善に資する。

調査内容

- 調査目的に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成した。

調査対象

- 東大阪市内の小学校の3・4・5・6年生の児童
- 調査対象教科は、国語・算数

◆用語について

目標値

学習指導要領に示された内容について標準的な時間をかけて学んだ場合、設問ごとに正答できることを期待した児童・生徒の割合。

正答率

各設問の正答率は、その設問に正答した児童・生徒の割合を示したものである。また、教科総合、領域別、観点別等の正答率は、対象設問中の正答率の平均を表す。なお、正答率を算出する上で、短答・記述式問題の準正答（部分点）については、正答数を0.5として計算している。

標準スコア

全国平均の正答率を50とした時の換算値。

「書く能力」の定着に課題が残る

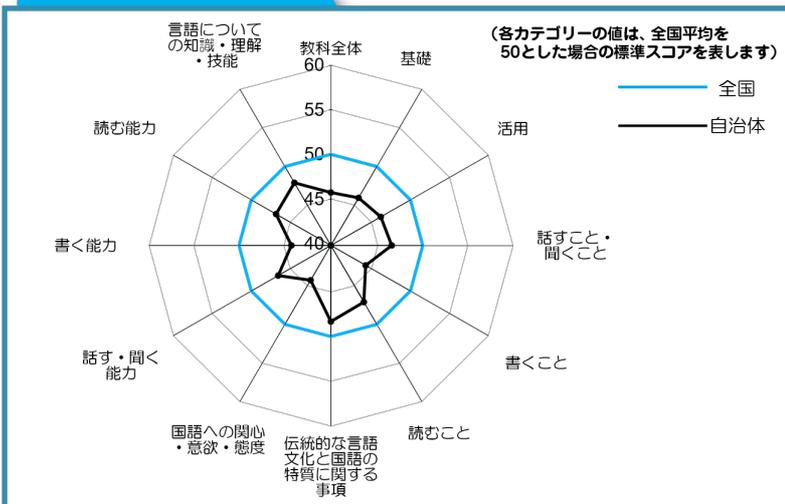
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		68.0	62.0											
基礎		70.2	63.9											
活用		58.0	53.2											
領域別	話すこと・聞くこと	85.0	85.5											
	書くこと	50.0	31.6											
	読むこと	69.2	65.1											
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.1	69.7											
観点別	国語への関心・意欲・態度	63.8	53.3											
	話す・聞く能力	85.0	85.5											
	書く能力	51.9	34.6											
	読む能力	65.7	60.6											
	言語についての知識・理解・技能	71.0	67.6											

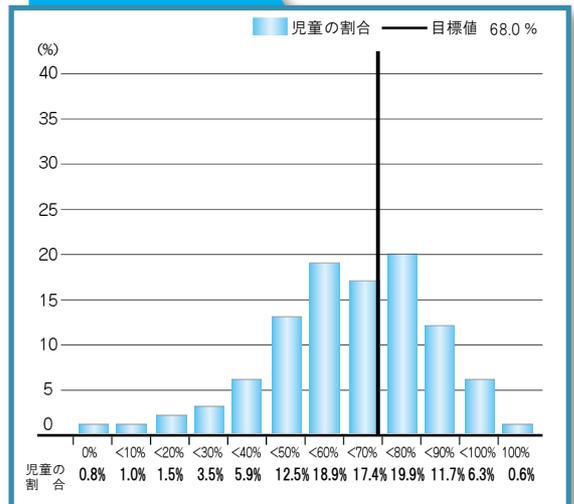
分析 コメント

- 小3国語は、教科全体の正答率が62.0%
- で、目標値を6.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「話す・聞く能力」が85.5%で、目標値を0.5ポイント上回った。一方、「書く能力」が34.6%で、目標値を17.3ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

ことばの学しゅう

大問3(3)①

<ねらい> 国語辞典の使い方を理解している。

目標値 50.0% 正答率 24.3% 差 ▲25.7 ポイント

指導のポイント 国語辞典で言葉を調べる際に、言葉の一字目が同じなら二字目、二字目も同じなら三字目で順番を決めるという五十音順の配列が理解できていないために、時間のかかる児童がいる。日頃から、例を挙げて調べさせたり、辞典引き競争や五十音並べ替えゲームをさせたりすることを通して、楽しく辞典の仕組みを理解させたい。また、教科書の新しい単元に入るたびに、教材文の言葉の意味を調べさせるなど、日常的に辞典を活用する習慣を身に付けさせるように指導することが大切である。

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 45.0% 正答率 19.4% 差 ▲25.6 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ことの意味が十分に理解できていないと、文章を組み立てることは難しい。まずは、「段落」という定義を正しく捉えさせることが大切である。その上で、教科書の教材文を形式段落に分けさせたり、一続きの文章を、話題の切り替わりによっていくつかの段落に分けさせたりする練習を積ませるとよい。

小3 算数

「数量や図形についての知識・理解」の定着に課題が残る

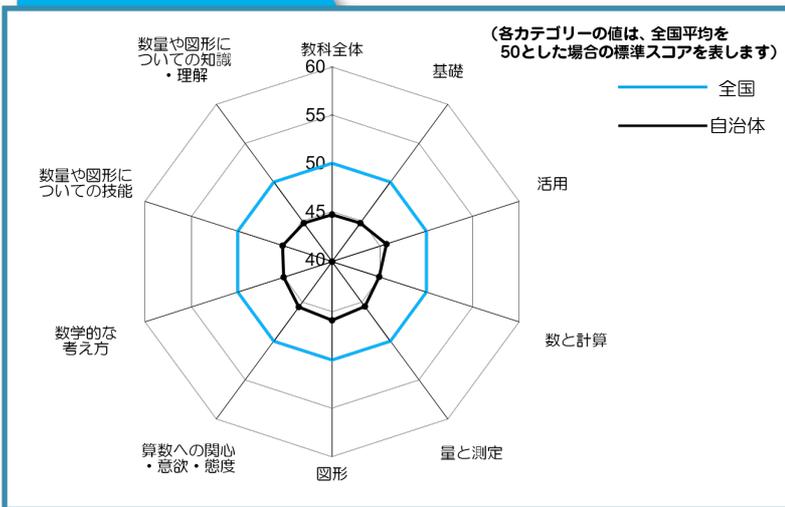
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		71.9	63.0											
基礎		78.1	69.6											
活用		56.0	45.8											
領域別	数と計算	72.9	64.7											
	量と測定	70.0	59.8											
	図形	70.0	58.7											
観点別	算数への関心・意欲・態度	66.8	57.8											
	数学的な考え方	63.7	53.2											
	数量や図形についての技能	71.9	64.5											
	数量や図形についての知識・理解	76.1	65.1											

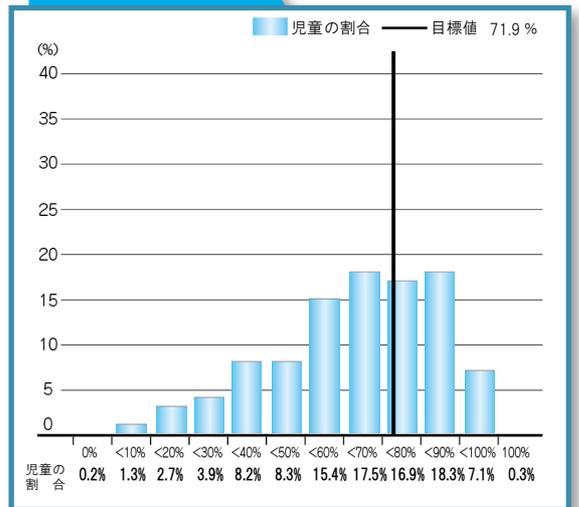
分析 コメント

- 小3算数は、教科全体の正答率が63.0%
- で、目標値を8.9ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数量や
- 図形についての知識・理解」が65.1%で、
- 目標値を11.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

長さ

大問11(1)

<ねらい> 道のりの意味を理解している。

目標値 75.0% 正答率 52.1% 差 ▲22.9 ポイント

指導のポイント 誤答の多くは、道のりと距離を混同してしまったものと考えられる。道のりは道に沿って測った長さ、距離はまっすぐに測った長さである。教科書の地図だけでなく、学区の地図などを用いて道のりを求める練習を積んだり、学校の周りを歩いたりして、道のりと距離の違いを実感できるようにする活動が大切である。また、日頃から、用語を正しく使うように指導することも重要である。

時ごとと時間

大問19(2)

<ねらい> 変更後の時間を考えて、今年のカレー作りの予定表を作ることができる。

目標値 30.0% 正答率 10.3% 差 ▲19.7 ポイント

指導のポイント なおとさんとみさきさんの会話から、必要な情報を取り出し、「お昼の予定表」の内容を変更する問題である。会話の中に、時刻に関する情報と時間に関する情報が含まれており、両者を混同しないように整理することが求められる。また、時刻と時間の違いについても、適切に理解していることが必要になってくる。日頃から、時刻や時間を取り入れて会話をしたり、活動したりして生活することを心がけさせるようにしたい。

小4 国語

「書く能力」の定着に課題が残る

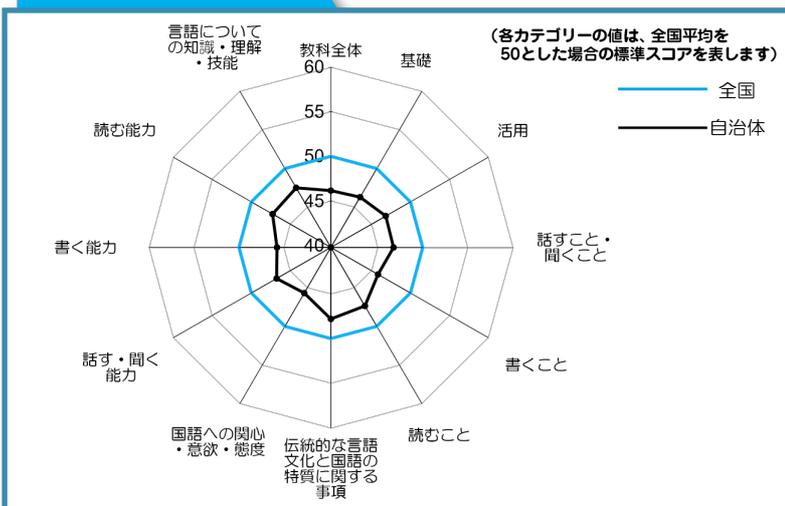
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		70.2	67.8											
基礎		73.0	70.1											
活用		57.0	57.1											
領域別	話すこと・聞くこと	78.3	74.4											
	書くこと	51.7	40.9											
	読むこと	71.4	70.3											
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.7	78.1											
観点別	国語への関心・意欲・態度	61.3	53.9											
	話す・聞く能力	78.3	74.4											
	書く能力	52.7	42.2											
	読む能力	66.9	65.1											
	言語についての知識・理解・技能	75.8	76.5											

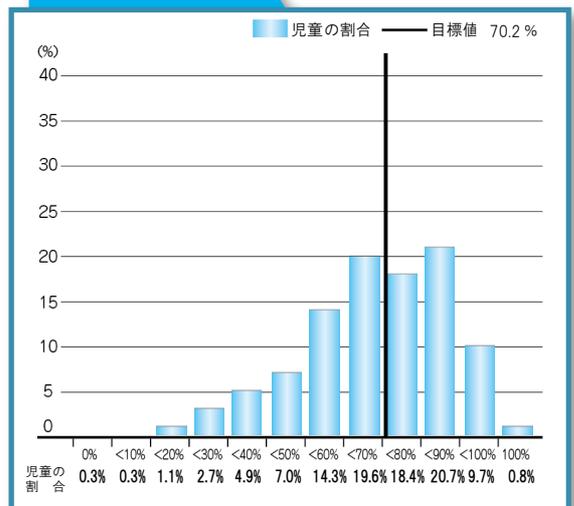
分析 コメント

- 小4国語は、教科全体の正答率が67.8%
- で、目標値を2.4ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「言語について
- の知識・理解・技能」が76.5%で、目標値
- を0.7ポイント上回った。一方、「書く能
- 力」が42.2%で、目標値を10.5ポイント下
- 回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

目標値 55.0% 正答率 37.1% 差 ▲17.9 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題である。「段落に分ける」ということを理解し、実際に段落分けができることが求められる。段落分けができなかった児童に対しては、まず教科書の教材文を示して、段落とはどのようなものを教える必要がある。その上で、意図的に段落のない短い文章を示し、話題の切り替わる場所で段落分けをさせると、段落意識をもたせることができる。

言葉の学習

大問3(1)

<ねらい> 文の構成(主語)について理解している。

目標値 80.0% 正答率 67.2% 差 ▲12.8 ポイント

指導のポイント 主語を捉える問題では、述語に着目させて、動作の主体を考えさせることが大切である。主語には、「は」や「が」の助詞が付くことが多いが、「も」「こそ」「だって」などが付く場合もある。「は」や「が」だけを押しさえさせるのではなく、述語との関係で考えさせたい。主語と述語の関係を理解しておくことは、ねじれない文を書くことにも役立つ。単なる文法的な知識にとどめず、「書くこと」や「読むこと」など、他の領域の学習にも生かしていけるように指導したい。

小4 算数

「数学的な考え方」の定着に課題が残る

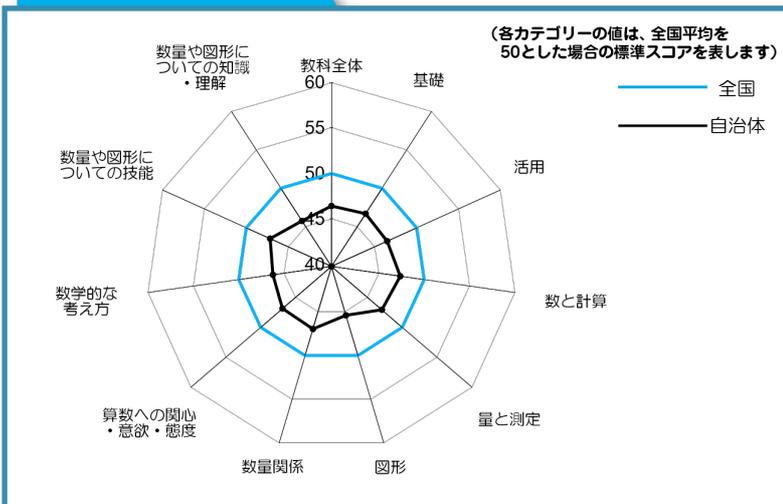
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		70.4	64.6											
基礎		74.3	69.4											
活用		58.9	50.5											
領域別	数と計算	72.8	68.3											
	量と測定	78.0	71.6											
	図形	58.8	46.6											
	数量関係	66.7	61.5											
観点別	算数への関心・意欲・態度	61.7	56.7											
	数学的な考え方	65.2	57.1											
	数量や図形についての技能	72.3	67.2											
	数量や図形についての知識・理解	69.3	63.4											

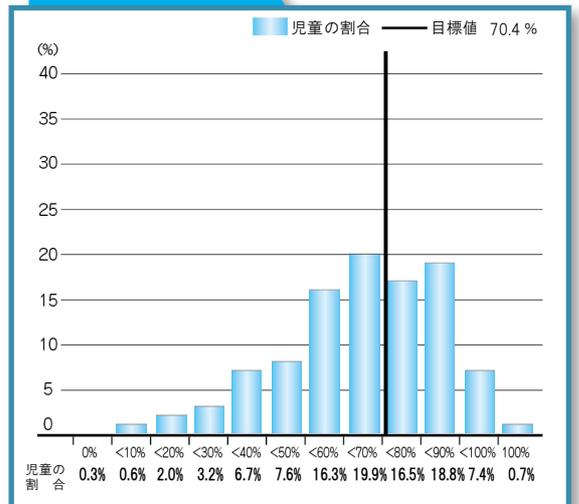
分析 コメント

- 小4算数は、教科全体の正答率が64.6%
- で、目標値を5.8ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数学的
- な考え方」が57.1%で、目標値を8.1ポイ
- ント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

わり算

大問2

<ねらい> わり算の筆算に出てくる数の意味を理解している。

目標値 55.0% 正答率 33.6% 差 ▲21.4 ポイント

指導のポイント わり算の筆算の指導では、はじめに10の束を等分し、次にばらを等分するという操作を行う。このとき、10の束を等分したときの商が十の位に立つ。本問では、9束のうち8束が等分されたことになる。このように、操作と形式的な筆算とを結び付けながら指導し、筆算の意味を理解できるようにさせることが大切である。

垂直・平行と四角形

大問18

<ねらい> ひし形の対角線の性質がわかる。

目標値 75.0% 正答率 55.9% 差 ▲19.1 ポイント

指導のポイント 図形については、定義や性質、作図を学習する。四角形では、作図の後に対角線の性質について学習するが、新しく学習した対角線の性質を利用して作図することを通して、対角線についての理解を深めることができる。特にひし形は、対角線から作図すると簡単にかける。このように定義や性質を活用して作図することで、図形への理解を深めさせたい。

「書く能力」の定着に課題が残る

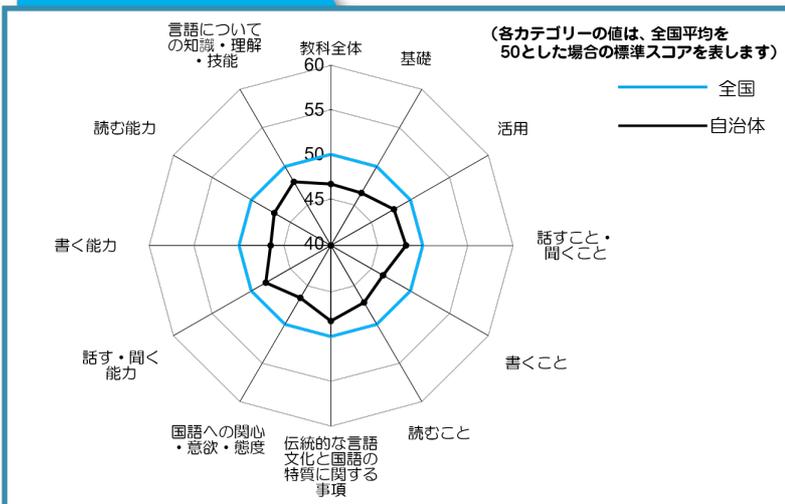
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
教科全体		68.8	66.2											
基礎		71.5	69.1											
活用		56.0	52.7											
領域別	話すこと・聞くこと	71.7	69.4											
	書くこと	65.8	58.1											
	読むこと	70.0	65.2											
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.8	70.0											
観点別	国語への関心・意欲・態度	67.5	62.7											
	話す・聞く能力	71.7	69.4											
	書く能力	63.5	55.7											
	読む能力	68.1	63.7											
	言語についての知識・理解・技能	68.8	69.4											

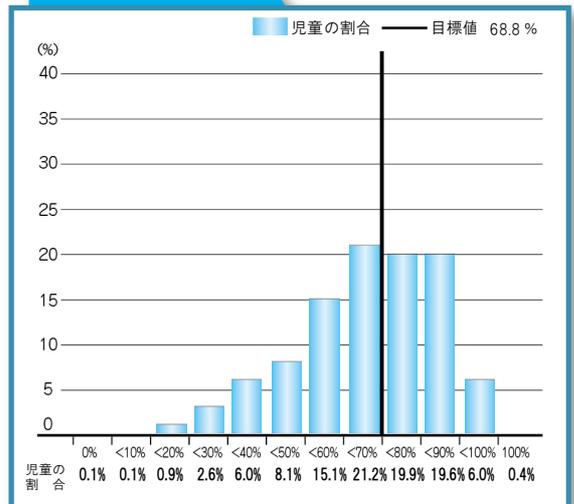
分析 コメント

- 小5国語は、教科全体の正答率が66.2%で、目標値を2.6ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「言語についての知識・理解・技能」が69.4%で、目標値を0.6ポイント上回った。一方、「書く能力」が55.7%で、目標値を7.8ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

作文

大問7

説明文の内ようを読み取る

大問5(1)

<ねらい> 2段落構成で文章を書くことができる。

<ねらい> 文章の内容を的確に読み取ることができる。

目標値 70.0% 正答率 55.4% 差 ▲14.6 ポイント

目標値 55.0% 正答率 46.6% 差 ▲8.4 ポイント

指導のポイント 文章を2段落構成で書くことができるかを見る問題であり、第一段落に、2人の考えのうち、自分の考えはどちらに近いのか、第二段落に、なぜそのように考えるのか、自分の体験などを交えて書くことが求められている。作文にあたっては、記述に入る前に、まず文章の組み立てを考えさせたり、必要な材料を十分に集めさせたりすることが大切である。「段落」の定義を正しく理解させた上で、自分の考えを分かりやすく効果的に書いたり、意見と理由を区別して書いたりする力を養っていききたい。

指導のポイント 文章に書かれた内容を的確に押さえて読み解く問題である。説明文が何について書かれた文章であるのかを理解するためには、文章全体において、各段落がどのような役割をもつのかを捉えることが大切である。当該段落は、問いかけの部分か、検証の部分か、結論の部分かなどを意識し、検討しながら読み進めることを指導したい。

小5算数

「数量や図形についての知識・理解」の定着に課題が残る

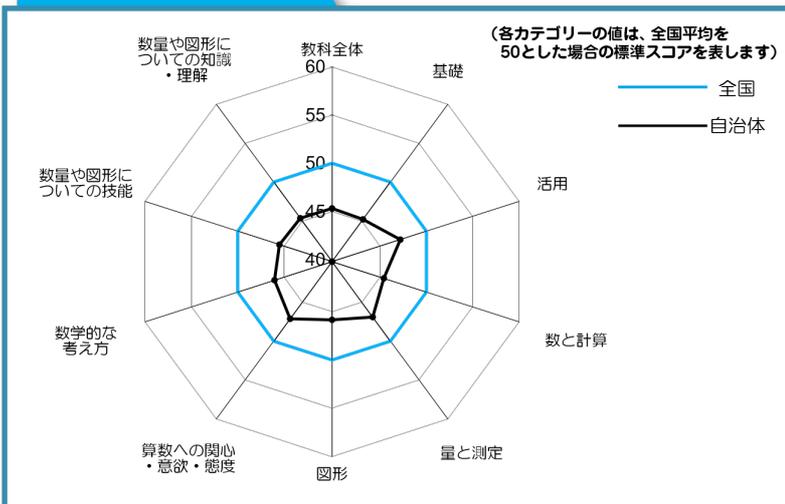
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		62.2	54.0	[Bar chart showing 54.0%]										
基礎		68.4	60.1	[Bar chart showing 60.1%]										
活用		36.4	28.4	[Bar chart showing 28.4%]										
領域別	数と計算	65.0	56.4	[Bar chart showing 56.4%]										
	量と測定	49.4	43.2	[Bar chart showing 43.2%]										
	図形	73.3	62.0	[Bar chart showing 62.0%]										
観点別	算数への関心・意欲・態度	44.2	35.3	[Bar chart showing 35.3%]										
	数学的な考え方	46.8	38.6	[Bar chart showing 38.6%]										
	数量や図形についての技能	71.2	63.4	[Bar chart showing 63.4%]										
	数量や図形についての知識・理解	62.4	53.0	[Bar chart showing 53.0%]										

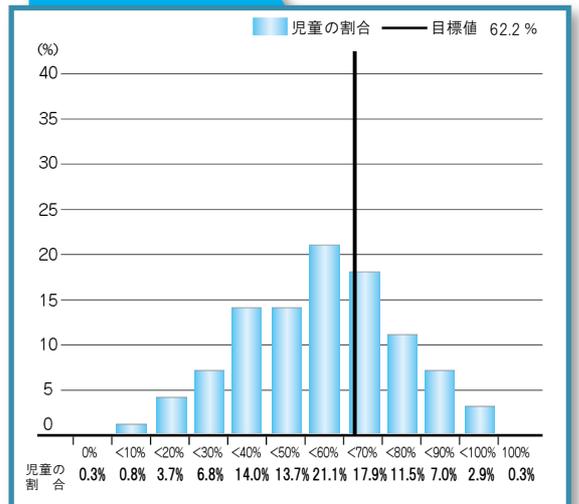
分析コメント

- 小5算数は、教科全体の正答率が54.0%
- で、目標値を8.2ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「数量や
- 図形についての知識・理解」が53.0%で、
- 目標値を9.4ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

小数のかけ算・わり算

大問22(3)

<ねらい> 問題の場面を理解し、小数のわり算を使って、辞典が何冊ならべられるかを求め、求め方を説明することができる。

目標値 25.0% 正答率 7.3% 差 ▲17.7 ポイント

指導のポイント 計算結果を問題場面に戻し、求めた数値が何に当たるのかを考えさせることが大切である。特に、余りのあるわり算においては、商と余りの単位が異なる場合があるので、それぞれの数何を表しているのかを十分考えさせたい。本問の場合、 $72 \div 5.5 = 13$ 余り 0.5 となって、本棚には辞典を13冊並べることができ、本棚の長さが 0.5cm 余る。ここから、14冊目が入らないことを、筋道立てて説明させる必要がある。

小数のかけ算・わり算

大問7

<ねらい> 小数の乗法でも分配法則が成り立つことを理解している。

目標値 50.0% 正答率 37.4% 差 ▲12.6 ポイント

指導のポイント 計算式を解くとき、いきなり計算をする前に、96という数をほぼ100と見る、9.6という数をほぼ10と見るなど、数を多面的に見ることで、簡単に計算できるようになる。この見方を表したのが分配法則であることを指摘しておきたい。法則を形式的に覚えさせるのではなく、法則のよさが分かるように指導することが大切である。

「話す・聞く能力」の定着に課題が残る

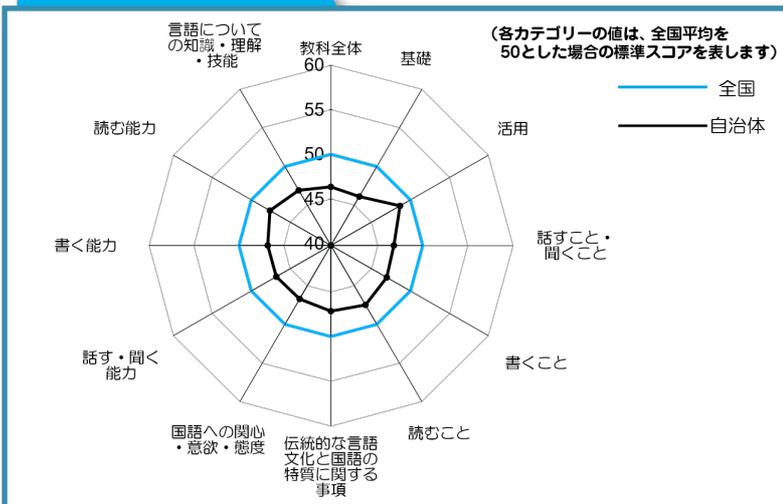
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		70.7	69.2											
基礎		75.2	73.4											
活用		50.0	50.1											
領域別	話すこと・聞くこと	71.7	66.7											
	書くこと	67.5	66.8											
	読むこと	75.7	77.1											
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	69.2	66.5											
観点別	国語への関心・意欲・態度	68.1	66.7											
	話す・聞く能力	71.7	66.7											
	書く能力	65.0	63.6											
	読む能力	72.8	74.7											
	言語についての知識・理解・技能	69.4	66.5											

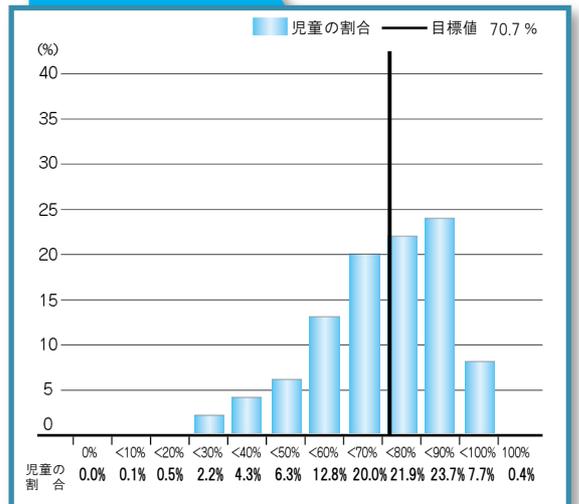
分析 コメント

- 小6国語は、教科全体の正答率が69.2%
- で、目標値を1.5ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、「読む能力」が
- 74.7%で、目標値を1.9ポイント上回っ
- た。一方、「話す・聞く能力」が66.7%
- で、目標値を5.0ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

漢字を書く

大問2(2)③

<ねらい> 第5学年配当漢字を書くことができる。

目標値 50.0% 正答率 34.7% 差 ▲15.3 ポイント

指導のポイント 学校では、漢字練習や小テストを繰り返しているが、定着するまでの学習時間には個人差がある。練習の方法としては、同じ漢字を1ページ書くよりも、書き順や送り仮名を覚えるために1行、熟語として2行、残りは文中で漢字を使う練習をする方が望ましい。本問のように、短文を書く中で漢字を書けるようにする練習は、家庭学習として定着させたい。学校では、さまざまな教科の文章を書く活動で、分からない漢字はすぐに辞書で調べさせるなど、漢字を使って文章を書く習慣を身に付けさせることが大切である。

話し合いの内容を聞き取る

大問1(3)

<ねらい> 話し手の意図を考えながら、話し合いの内容をまとめることができる。

目標値 35.0% 正答率 26.2% 差 ▲8.8 ポイント

指導のポイント 本問では、話し手2人の主張の根拠となる、社会の状況の捉え方（自分と考えの違う人がたくさんいるという事実認定）が共通していることを聞き取らせる。「聞く力」の育成のためには、主張・理由・根拠を意識して聞く習慣のほか、話の背景にある話し手の表現意図を洞察しながら聞き、聞き取った主張や表現意図に対して自分なりの考えをもつ習慣を身に付けさせたい。その際、話し手が表現する際の間の取り方や抑揚（特に意図的強調表現）などに留意し、強調した点などを識別しつつ、メモを取って聞くように指導する。

小6 算数

「算数への関心・意欲・態度」の定着に課題が残る

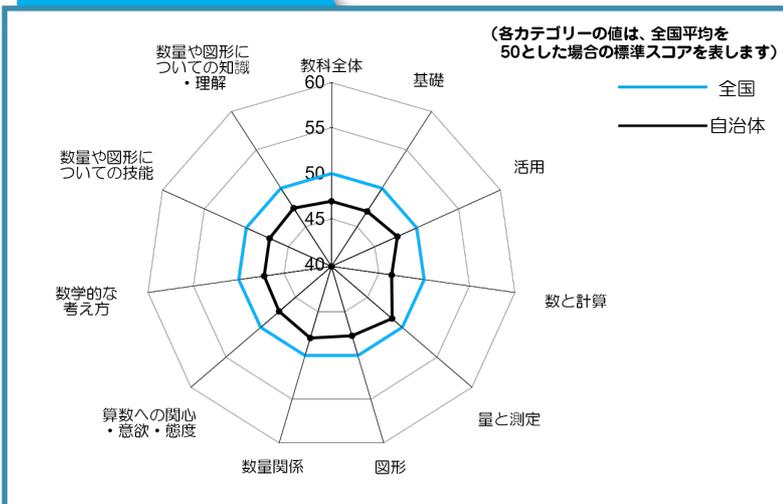
正答率一覧

(単位%) ★=目標値		目標値	自治体	0	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100 (%)
教科全体		71.4	67.4											
基礎		74.5	70.7											
活用		55.8	51.1											
領域別	数と計算	74.7	69.7											
	量と測定	66.9	65.0											
	図形	72.5	69.6											
	数量関係	66.0	61.1											
観点別	算数への関心・意欲・態度	57.5	51.6											
	数学的な考え方	60.2	55.1											
	数量や図形についての技能	77.4	73.9											
	数量や図形についての知識・理解	70.2	66.7											

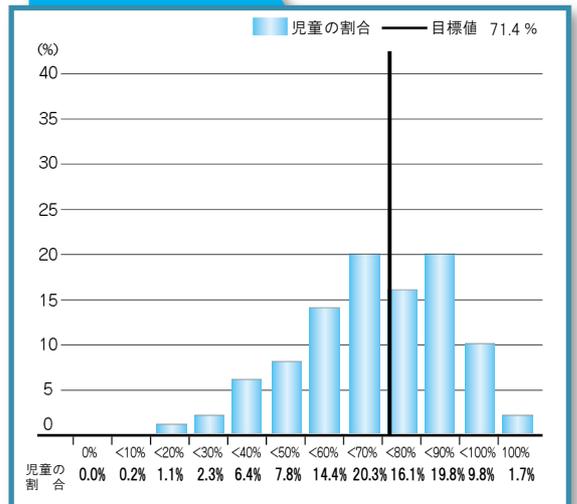
分析 コメント

- 小6算数は、教科全体の正答率が67.4%
- で、目標値を4.0ポイント下回った。
- 観点別に正答率を見ると、すべての項目で
- 目標値に届かなかった。中でも、「算数への関心・意欲・態度」が51.6%で、目標値
- を5.9ポイント下回った。

カテゴリー間の比較



正答率度数分布



★ 課題となる小問 ★

分数のかけ算・わり算

大問6(1)

<ねらい> 1より小さい分数をかける乗法の問題場面を理解し、数量の関係を数直線に表すことができる。

目標値 70.0% 正答率 54.4% 差 ▲15.6 ポイント

指導のポイント 本問の数直線は、2つの数量が比例していることが前提となっている。まず、2本の線があることから2つの単位が必要になり、「dL」と「円」を用いることを確認させる。次に、対応している数量の関係を見つけさせる。ここでは、1dLと400円、5/8dLと□円が対応している。数直線上に表す場合は、1dLと5/8dLの大小関係にも着目して表す必要があることを指摘したい。数直線に表したならば、比例の関係をを用いて立式すればよい。

比と比の値

大問15(2)

<ねらい> 比を使って、一方の量から他方の量を求めることができる。

目標値 75.0% 正答率 65.8% 差 ▲9.2 ポイント

指導のポイント 比を用いて数量を求める際には、比の数が1に当たる量を押さえ、その何倍かを考えることが大切である。式の立て方としては、わり算で1あたりの量を求めてから何倍かする方法と、分数倍する方法がある。いずれも考え方は同じであるので、基本となる考え方をきちんと押さえるよう指導する必要がある。